

【関委員御意見】

平成 20 年 5 月 23 日

関彰商事株式会社  
関 正樹

## 第 2 次情報セキュリティ基本計画検討論点（案）に関して

第 5 回の委員会では全体的に、ネットワークやコンピュータシステムに焦点があたり、その情報セキュリティ対策について議論が集中したように思います。現実には紙や USB メモリを介した紛失・盗難など、人的な要因が多分に関与している事故が多いと聞いております。より地に足のついた情報セキュリティを確立するには啓発の為の教育を実施し、情報セキュリティに関する文化をどう確立し定着させていくかが肝要であると思います。

以下に検討論点（案）の内容について感ずる点を記述いたします。

## 1. 「メッセージ」部分“検討論点”②について（P.4）

## ○ 目標部分（P.10）との関連性

- ・ 「気づき」を持った対策実施主体が、自ら考え・・・ とありますが、組織において情報セキュリティに関しての「気づき」を持って自ら考える主体性をいかにして担保するかを考えなければならないと思います。この点について目標や推進体制・重点政策への展開が不足していると思われる。また、SaaS や ASP の活用だけでは不十分であると思います。

## 2. 「目標」部分“検討論点”①について（P.10）

## ○ 利益認識型の対策推進

- ・ 倫理期待型に加えて利益認識型の対策を推進することは重要であると思います。これは「最低水準や基準の提示」（p.11）を行う事と深く関連するものであり、守るべき最低基準を明確にすることで、対象となる組織はさまざまな恩恵をうけることができると思います。
- ・ 中小の企業の中には「情報セキュリティに関して意識すらない」ところもあります。そのような組織に対して、「ここまでこの様に対策をすれば良い」という一部保証型の規定・監査制度を設けることにより、「対策疲れ」が発生しづらくなり、合理性に裏付けられたアプローチが可能となるのではないのでしょうか。

- ・ 最低基準に値するこれらの規定や監査制度はわかりやすいものでなくてはならないと思います。現在の経済産業省の情報セキュリティ管理基準は詳細について要求事項を記述しており用語も含めて一般の方々が理解するには困難であると思います。
- ・ また、具体的な対策レベルでの展開が明確となり、アウトソーシングを行うことも容易になるように思いますし、より効果的で効率的なサービスが IT ベンダーから提供される期待もでてくると思います。

### 3. 推進体制の強化について ( P.16)

#### ○ アウトソーシングの推進に関して

「強い動機付けと具体的な推進体制が必要」であり、この点についてどのように取り組むべきか、ということは大変重要なことであると思います。また、個々の組織や企業において効果的・効率的な対策を推進することは容易では無いと思います。

しかし、中小の企業においては、その手段として委託・アウトソーシングを推進することだけで解決できるものであるとは思えません。

#### ① アウトソーシング範囲の問題

- ・ アウトソーシングを推進するのにどこまでの範囲を対象とするのか？

ISMS のフレームワーク構築、教育、実装と範囲は広いと思われます。前回の議論の通り中核はプロパーが実施し、教育や情報セキュリティシステムの実装・監視をアウトソーシングするのが限界であると思います。

#### ② コストの問題

- ・ 一般的にある程度の業務量があればアウトソーシングによるコストメリットを感じることができます。しかし、中小の組織においては業務の種類は組織の大小に関わらず変わりませんが、量そのものは少ないのが現状です。いわゆる「かけもち」により効率化を行っているのも事実です。このような状況ではアウトソーシングがスケールデメリット（コスト増）になってしまうのではないのでしょうか。

以上